

鹿児島県立鹿児島南高等学校

南のお宝発見隊！

～谷山地域の活性化を目指して～

1 学校の概要

本校は鹿児島市南部に位置し、昭和23年に創立された歴史と伝統ある県立高等学校であり、地域に根ざした教育活動をとおして、社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成に取り組んでいる。校訓「独立自尊」「開拓創造」「協力奉仕」のもと、生徒一人ひとりが主体的に学び、自ら考え行動する力を育むことを教育の柱とし、日々の授業や学校行事、部活動、地域連携活動をとおして、生徒の人間力を高めることを目指している。

本校には、普通科・商業科・情報処理科・体育科の4学科が設置されており、生徒の個性と創造性の伸長に努めるとともに、各学科の教育目標に向かい、それぞれが特色のある教育活動を実践し、生徒の適正な進路実現の充実を図っている。進路指導においては、大学や短大、専門学校への進学、公務員や地域産業を支える企業への就職など、生徒の希望に寄り添ったきめ細やかな指導を行っている。また、部活動が非常に盛んで、体育系・文化系ともに多くの部が九州大会や全国大会に出場するなど、高い成果を上げている。部活動をとおして、仲間と協働する力、困難に立ち向かう精神力、そして最後までやり抜く力を育てている。

本校は地域に信頼され、生徒とともに成長し続ける学校を目指すとともに、今後も「文武両道」を教育の柱に掲げ、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、地域や社会に貢献できる人材の育成に努めていきたい。

2 事業の概要

(1) 事業のねらいや目標

ア 地域の特徴

谷山地区は、鹿児島市南部の副都心として位置づけられ、交通の要衝となっている。JR指宿枕崎線や市電、主要幹線道路が集積し、通勤・通学や物流の拠点として重要な役割を担っている。谷山駅周辺では整備が進み、臨海部では工業地帯が形成され、製造業や物流関連産業が立地している。

イ 地域の課題

JRや市電、幹線道路が整備されているものの、通勤・通学時間帯には国道や主要道路で慢性的な交通渋滞が発生し、公共交通機関だけでは移動が不十分な地域も存在する。また、商業・にぎわいの不足を指摘する声もある。市街地中心部に比べると、大規模商業施設や娯楽施設が限られており、若者にとって魅力ある滞在・交流の場が少ないと感じられる。

ウ 育成する人材像

谷山地区の歴史，文化，産業，自然環境を正しく理解し，地域社会の一員として自らの役割を考え，行動できる力を身に付けることが重要である。地域行事やボランティア活動への参加をとおして，他者と協働する態度や，地域に貢献しようとする意識を養い，地域を理解し，地域とともに生きる姿勢を備えた人材を育成する。

加えて，将来社会で自立し，地域内外で活躍できる実践力ある人材の育成も重要である。基礎学力や専門的知識・技能を身に付けるとともに，責任感や粘り強さ，変化に挑戦する力を備え，進学・就職を問わず社会に貢献できる人材を育成する。

(2) 事業のイメージ図



3 事業の経過

日	内 容	参加者
4 月		
15日	・今年度の年間活動計画	各班
16日	・今年度の開発商品検討 ・今年度のHP内容の検討	商品開発班 広報班
22日	・学校紹介1分動画作成	各班
5 月		
7日	・【出前授業】（じゃんけんマンほか） キャラクター考案の流れ	「商品開発と流通」選択者
13日	・開発商品の検討とプレゼン作成	商品開発班
15日	・【出前授業】（かごしま市商工会） 地域貢献活動について	地域活性化班
27日	・学校紹介1分動画 完成	学校活性化班
29日	・【出前授業】（イケダパン） 昨年度の開発商品の反省と課題	商業科・情報 処理科全学年
6 月		
10日	・【出前授業】HPの作成，システム構築（キューブ）	広報班
17日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 活動の概要 ・共同開発商品 打合せ（イケダパン） 商品の提案	地域活性化班 商品開発班 商品開発班
7 月		
1日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 出店と販売商品検討	地域活性化班 商品開発班
8日	・マリポートおもてなし活動① ワークショップ（剣道，茶道，日本の昔の遊び体験等）	広報班 観光班
17日	・【出前授業】（鹿児島製茶） 鹿児島のお茶と販売促進方法	地域活性化班 商品開発班
8 月		
21日	・スキルアップセミナー	アントレ班
9 月		
9日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 販売商品の原価計算や販売価格の設定等	地域活性化班 商品開発班
11日	・開発商品の提案（La Plus）	地域活性化班
19日	・【出前授業】（鹿児島製茶） 鹿児島のお茶と販売促進方法	商品開発班
22日	・共同開発商品 打合せ（ニシムタ） ・共同開発商品 打合せ（イケダパン）	商品開発班

27日	・文化祭においてキャラクターを活用した募金活動 ・キャラクター「みなぼん」とテーマソングのお披露目	学校活性化班
30日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 販売商品の試作と販売価格決定	地域活性化班
10月		
14日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 最終打合せ ・【本校生徒による出前授業】（谷山幼稚園） キャラクター「みなぼん」とテーマソングのお披露目	地域活性化班 広報班 学校活性化班
15日	・マリポートおもてなし活動② ワークショップ（書道，茶道，箸遣い体験等）	広報班 観光班
26日	・かごしまアントレプレナーシップ養成事業への参加 ・谷山ふるさと祭への参加	アントレ班 地域活性化班
11月		
1日	・共同開発商品 打合せ（Sin）	商品開発班
4日	・学校広報ポスター作成	学校活性化班 広報班
5日	・【出前授業】HPの作成方法（キューブ） 各活動ページの作成とアップロード方法	広報班・観光班 商品開発班 地域活性化班
11日	・【出前授業】谷山ふるさと祭（祭振興会） 反省と会計報告	地域活性化班 商品開発班
12月		
1日	・購買部 購買ポイントカード導入	学校活性化班
9日	・【出前授業】共同開発商品（Sin） 試食，打合せ ・【出前授業】共同開発商品（ニシムタ・イケダパン） 試食，打合せ	商品開発班
16日	・【本校生徒による出前授業】 （鹿児島市立清和小学校6学年） お金について	金融班
17日	・【出前授業】共同開発商品（イケダパン） 試作品，打合せ ・企業見学（鹿児島製茶）	商品開発班 「商品開発と流通」選択者
1月		
8日	・【出前授業】共同開発商品（Sin） 試食，打合せ	商品開発班
16日	・校内で新商品紹介（ポスター作成）	商品開発班 広報班

27日	・【販売実習】（おいどん市場） ・企業研修（株式会社JA物流かごしま）	商品開発班・広報班 地域活性化班
29日	・【成果報告】課題研究発表会	商業科・情報 処理科全学年
2月		
1日	・新商品（パン）販売開始	商品開発班 広報班
11日	・【販売実習】（鹿児島中央駅）	商品開発班 広報班
21日	・【販売実習】 （てげてげハイスクールフェスティバル2026）	商品開発班 広報班

4 事業の内容

(1) 校内活性化

ア キャラクター制作

本校には「鹿児島南高校キャラクター」がないため、キャラクターを制作することにした。そこで、ご当地ヒーロー（自称）「じゃんけんマン」を講師に迎え、キャラクター考案から制作までの流れや注意点等について学び、生徒たちが考案した五つのキャラクターについて、それぞれのアドバイスを受けた（図1）。



図1 じゃんけんマンによる授業

考案した各キャラクターのイラストを校内に掲示し、全校生徒に投票を募った（図2・3）。



図2 キャラクターの投票の様子①

図3 キャラクターの投票の様子②

図4 キャラクター決定

投票の結果、「みなぼん」というキャラクターに決定（図4）してからは文化祭でのお披露目に合わせて、自分たちでキャラクターの着ぐるみを製作したり、歌詞を考えテーマソングを制作したりした。文化祭閉会式で、キャラクターのお披露目の時間を設定し、全校生徒に周知した（図5）。

その後、近所の谷山幼稚園でお披露目をしたり、鹿児島商業高校との交歓野球大会で活動するなどして、周知を図っている（図6・7）。



図5 キャラクターのお披露目



図6 周知活動の様子①



図7 周知活動の様子②

イ 購買部・学食のリニューアル

昨年度から購買部や学食のリニューアルにも取り組んでいる。売上が低迷している学食や購買部の存続は、学校・生徒たちに大きな影響がある。そのため、利用者を増やすことを目指し、学食に壁紙を貼り（図8）、明るい雰囲気にして、作った暖簾をかけた。購買部では取扱商品を掲示したり、購買ポイントカードを作成して、200円ごとにみなぼんシールを1枚配布し、30枚で100円引きをするキャンペーンを実施した（図9）。



図8 学食の様様替えの様子

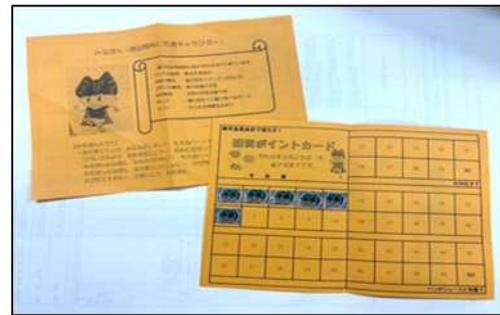


図9 購買ポイントカード

ウ 学校紹介

鹿児島南高校をより多くの人に知ってもらうために、学校紹介1分動画と学校紹介ポスターの作成をした。学校紹介の動画作成については、色合い、フォントの種類やサイズ、画像のサイズや配置だけでなく、著作権や肖像権にも配慮した。また、1分という短い時間に、どうすれば鹿児島南高校を理解していただけるかを考え、生徒や教員だけではなく、管理職にプレゼンをして、アドバイスをもらい、完成することができた。また、ポスターは4班に分かれて、班ごとに作成し、お互いに良い点や改善すべき点等を指摘し合うことでより良い作品作りを目指した。最終的には1番良い作品を地区専門高校フェスタに持参し、中学生に見てもらった。

(2) 地域活性化

ア 谷山ふるさと祭での販売活動

本校のある谷山地区は、JRや市電、幹線道路が整備されているものの、商業・にぎわいに活気が感じられないことから、少しでも活性化させるためにかごしま市商工会に相談した。

かごしま市商工会の方に、地域活性化についての出前授業をしていただき、今年度は地域の祭りである「谷山ふるさと祭」に参加することを決めた。どのような形で参加するかを祭振興会の担当者と打ち合わせ、模擬店の出店を中心に、祭りの準備や片付け等の手伝いをすることにした。模擬店を出店するにあたり、何を販売するのか、売価はいくらにするのかなど、何度も話し合い（図10）、その結果、揚げパンとレモネード、ホットドッグを販売することに決めた。販売商品が決定すると、次は販売個数を決定し、販売促進のためのPOPを作成した。

当日は、鹿児島情報高校と協働してテント設置や店舗設営等を行い、開店を迎えた。模擬店での販売実習では、声出しから調理、会計まで、地元の人たちと交流しながら、学校では学べないたくさんの経験をした。祭りの後は、店舗やテント撤去、ゴミ拾いなどをして終了した。この取組は、地域活性化に少しでも貢献できればと考えたことから始まった。終わってみると、この取組をとおして、日頃、授業で学んでいる損益計算や仕入計画、販売計画を実際に体験し、商業科目での学びが実社会で生かせることを実感するとともに、充実した経験となった（図11・12）。



図10 販売計画の様子

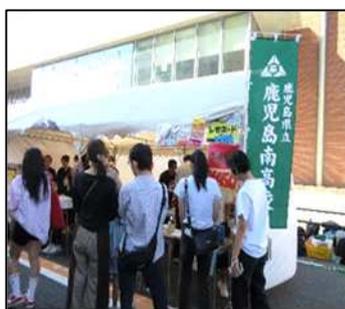


図11 販売実習の様子①



図12 販売実習の様子②

イ マリンポートおもてなし活動

一昨年度からマリンポートプロジェクトという活動を実施している。マリンポートに寄港する大型客船の乗客に対して、鹿児島や日本についての紹介を行い、鹿児島や日本についての理解を深め、鹿児島や日本へのリピーターの増加を図った。外国船の乗客へのおもてなしでは、英語が必須であり、英語表記の紹介ポスターを作成（図13）し、英語で紹介する練習を行った。



図13 英語表記のポスター作成

当日は英語科の教員や英会話部の部員にも協力してもらい、一緒に活動を行った。日本の文化に触れてもらうため、剣道や茶道、書道のワークショップを開き、実際に体験してもらった（図14・15・16）。この他、けん玉や折り紙、箸遣いなどのコーナーも設置し、老若男女のお客様が参加してくれた。特に外国のお客様は大変喜んでくださり、写真を撮ったり、チップをくれた乗客もいた。



図14 書道体験



図15 剣道体験



図16 折り紙体験

ウ 出前授業（金融教育）

金融班では、4月から金融商品に関するリスク管理や資産運用等についての研究を始め、将来のために金融教育の必要性を強く感じたことから、自分たちの学びを地元の小中学生に伝えたいと考えた。

そこで学校近くの清和小学校6学年を対象に、金融教育の出前授業を実施した（図17・18）。金融に関するさまざまな知識を小学生に伝えるために、言葉やイラストを工夫したり、クイズ形式を取り入れたりして楽しく分かりやすく学べるように心掛けた。

出前授業の内容は、「なぜ金融について学ぶの？」「将来、どのくらいのお金が必要なの？」「老後の生活費はどうするの？」という三つのテーマに絞り、金融トラブルや年金についても分かりやすく説明をした。実施後のアンケートでは「かしこく生きていきたい」「むだづかいしないで貯金をしていきたい」などの感想が寄せられた。生徒たちが学んだ知識を小学生に伝えることで、小学生が将来について考え、金融についてより深く考えるきっかけとなったことは、大変良かったと考える。



図17 出前授業の様子



図18 小学生のお礼の言葉

(3) 開発商品

ア 株式会社イケダパンとの共同開発商品

昨年度から株式会社イケダパン（以下、イケダパン）との共同開発商品を販売している。年度当初に昨年度の開発商品の売上や利益率等の報告を受け、昨年度の反省として、地元の素材にこだわったことで販売価格が上がると教えていただいた（図19）。そこで、今年度はターゲットを高校生とし、あまり地元の素材にこだわらず、高校生が手軽に購入でき、満腹感を味わえる商品を検討することにした。

イケダパンとの打ち合わせを重ね（図20）、商品化するパンを2種類決定した。次にパッケージデザインに取り組んだ。パッケージには今年度誕生したキャラクター「みなぼん」を用いることで、鹿児島南高校の商品とすぐに分かるように工夫した（図21）。2月1日から商品として小売店で販売した。



図19 出前授業の様子



図20 打ち合わせの様子



図21 開発商品

イ 株式会社ニシムタとの共同開発商品

株式会社ニシムタ（以下、ニシムタ）とはクリスマスやバレンタインをメインとしたスイーツの開発を行った。商品を開発するにあたり、ターゲットを若い女性とし、SNSがメディアの主流である今、「映えるスイーツ」をテーマにケーキを作る計画を立てた。製造はイケダパンに依頼するため、イケダパンを交えながらニシムタと打ち合わせを行い、商品を完成させた（図22）。



図22 試作品の確認

ウ 鹿児島製茶株式会社との共同開発商品

鹿児島県は2024年度初めて荒茶生産量・産出量ともに静岡県を抜き、日本一を獲得した。現在、お茶は健康フードの一つとして大人気で、「国内だけではなく、海外でも抹茶ブーム」である。しかし、鹿児島製茶株式会社（以下、鹿児島製茶）によると、低年齢層の消費量が少なく、もっと低年齢層に鹿児島のお茶を楽しんでもらうことが課題であるとのことだった。高校生世代でもお茶を好んで飲んでいる人は少ないと考えられることから、若者が手

にするお茶の商品開発に力を入れることにした。

まずは、本校生徒からお茶を広めるために、普通科・商業科・情報処理科・体育科をイメージする茶葉の選定をした。茶葉の選定や配合については、企業からアドバイスを受け（図23）、飲んだ後の爽快感やまろやかさなどに気を付けた。普通科はレモングラス紅茶（気分を明るくし、集中力を高める）、商業科・情報



図23 茶葉の配合の説明

処理科はほうじ茶（検定資格の勉強の合間など、休憩時に）、体育科は抹茶入緑茶（部活動中の水分補給に）と各科をイメージした茶葉が決定した。

次は「みなぼん」をキャラクターとし、各学科のパッケージデザインを考えた。イラストを見ただけで、各学科が分かるように工夫した。

そして、自分たちの商品がどのように製造されるかを知るために、鹿児島製茶で企業研修を行った（図24・25・26）。工場内であるため、衛生管理が徹底されていることや、茶葉は酸化するため鮮度の保持や保管管理に気を付けていることを学習した。この商品は2月から発売された。



図24 製造の見学



図25 お茶の入れ方



図26 研修後

エ ケーキハウスSinとの共同開発商品

鹿児島南高校をイメージしたスイーツ作りにも取り組んだ。「鹿児島のスイーツ」といえば「しろくま」, 「鹿児島の高校」といえば「鹿児島南高校」と有名になるように、スイーツの味はしろくまと同じ練乳風味にした。四つの学科があるため、四つのフルーツを使用したロールケーキとムースを考案した。試作品を食べて「フルーツを中に混ぜてはどうか」ということを提案した（図27）。ケーキハウスSinからは「スイーツは見た目が大切」「今は甘いスイーツは流行らない」などとアドバイスを受け、練乳の配合やムースの上にフルーツを載せるように工夫した。生徒たちはイメージだけで考えていたが、専門家は生徒たちが気付かない市場の状況もしっかりと把握し、製品計画を立てていることを学んだ。また、パッケージデザインを考えた（図28）。商品の大きさを考慮し、どのようなイラストにするか、形状はどのようなものにするかを考え、ケーキハウスSinに提案し、決定した。完成した商品は1月末に販売をした。



図27 試食と打ち合わせの様子



図28 パッケージデザイン

(4) その他の活動

ア キューブ株式会社による授業

キューブ株式会社は社長が本校の卒業生であり、東京でシステム開発やソフトウェア開発事業等を展開する企業である。生徒は実際にWebページを一から制作することで、情報処理の授業で学んだ知識や技術が、実社会でどのように生かされているかを体験することができた。また、企業からは、環境構築やWebデザインの手順等のサポートを受けた。Webページの構成は、トップ、鹿児島県の観光・歴史、グルメ、商品開発、おもてなし活動とし、鹿児島の広報だけでなく、鹿児島南高校の広報活動も行う構成にした。

最初はリモートで指導を受けていた(図29)が、2学期に企業担当者(本校卒業生を含む)に来校していただき、直接、出前授業を受け(図30・31)、対面での指導と失敗や質問等にも即座に対応いただけたことで、生徒たちの理解も一層深まり、自分たちでページの更新が円滑にできるようになった。



図29 リモート授業



図30 対面授業の様子①



図31 対面授業の様子②

イ アン Entrepreneurship 教育等への参加

夏に行われたスキルアップセミナー(図32)や鹿児島青年会議所主催のアントレプレナーシップ教育レクリエーション「かごポリー」に参加し、資産運用や経営について深く考える機会をもった(図33・34)。「かごポリー」では、巨大すごろくを進めながら、各チームでラーメン屋を大きくするために、チーム内で経営者としての意見を出し合い、止まったマスで示されたイベントに合わせた経営判断をしていき、企業経営の楽しさや難しさを体感した。



図32 スキルアップセミナー

図33 かごポリーの様子①

図34 かごポリーの様子②

(5) 物流業の役割と本県の現状と課題を学ぶ

自分たちの考えた商品がどのような形で流通していくのかを学ぶために、株式会社JA物流かごしまを訪問した。商品の製造からパッケージング，配送に係る一連の様子等を見学し，さらに，物流業の役割と本県の現状と課題について学んだ。

5 事業の成果とその評価

(1) 課題解決の状況

今回このような機会をいただき，商業科・情報処理科3学年全体で「南のお宝発見隊!～谷山地域の活性化を目指して～」という大きなテーマを掲げ，取り組んできた。谷山地区を盛り上げるためには，その中心となる自分たちの学校を盛り上げるべきだという考えに至り，学校内の活性化から谷山地区の活性化へと範囲を広げて活動してきた。今回のさまざまな活動では，地元企業の方々に直接指導をしていただくことで，自分たちが見えているものだけではなく，その背景についても考えなければならないことを理解することができた。また，地域の活性化を図るためには，自分たちの身近な諸問題や地域課題にも目を向け，解決するためには多くの人の力と時間を要することも理解できた。

今年度は大きな成果を残すことはできなかったが，まずは校内の活性化に貢献できたのではないかと考える。また，今回の活動をとおして，地域の企業や自治体等と協力することにより，生徒たちにとって実りのある取組ができたと考える。実社会で働く人の考えに触れることで，将来の進路選択にも役立つ経験になり，鹿児島県の発展のために働きたいと大学進学を決めたり，公務員や鹿児島県の企業を支える職業に就きたいと考える生徒が増えたりしたことは大きな成果だと考える。

本事業の活動期間において，学校や地域の活性化を目指して取り組んできた。これらの活動をとおして，生徒たちは企業の担当者から直接指導を受け，校外に出て活動をした結果，地域の課題に目を向け，主体的に自分たちにできることを考え，活動してみたいという意識が芽生えた。このことは極めて有意義であったと考える。また，実践活動の成果として，学校単独では困難な各企業との共同開発商品が完成し，イベントでの販売実習や店頭で販売することができた。これらの活動によって，学校の知名度の向上や谷山地区の活性化に多少なりとも寄与することができたのではないかと考える。

(2) 評価

今回の事業は、授業の一環として活動してきたため、授業における評価の一部としてしている。また、これらの取組までを終えて、生徒たちがどのように感じたかを把握するアンケートを実施した。

ア 「商品開発と流通」の評価の一部

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商品開発の基礎となる商品コンセプトの重要性を理解するとともに、アイデアの出し方とまとめ方を身に付けている。	課題に基づきコンセプトを考案し、多様な意見を集約して全体成果を表現することができる。	アイデアの出し方について自ら学び、組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。

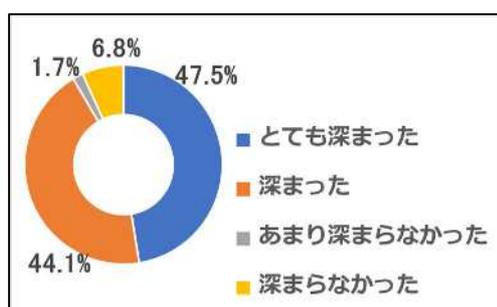
イ 「課題研究」の評価の一部

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
設定した課題について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた知識や技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を自ら発見し、課題解決に向けて思考を深め、科学的な根拠に基づいて判断し、表現することができる。	課題に興味と関心を持ち、課題解決に向けて自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

ウ 生徒の自己評価の一部（アンケート結果）

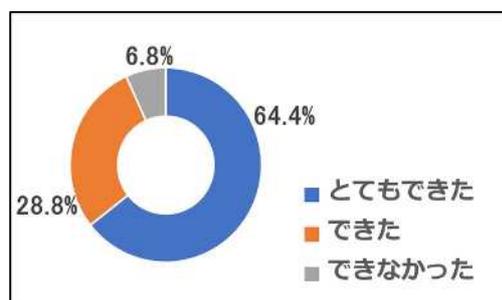
(ア) 地域が抱えている課題について、活動前よりも理解が深まりましたか。

グラフ1



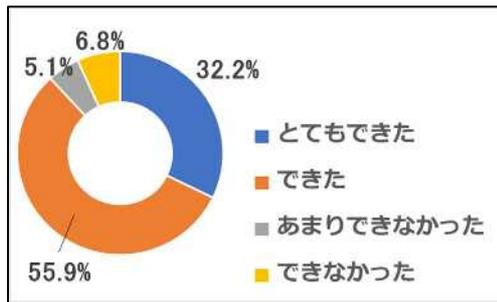
(イ) グループのメンバーや地域の方と協力して活動ができましたか。

グラフ2



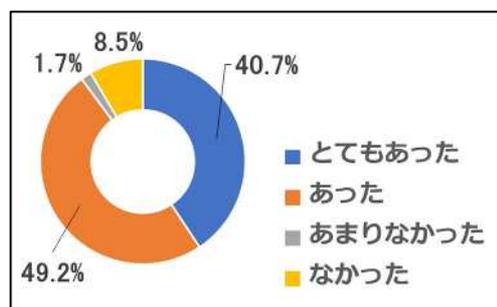
(ウ) 発表や話し合いなどで自分の考えを人に伝えることができましたか。

グラフ3



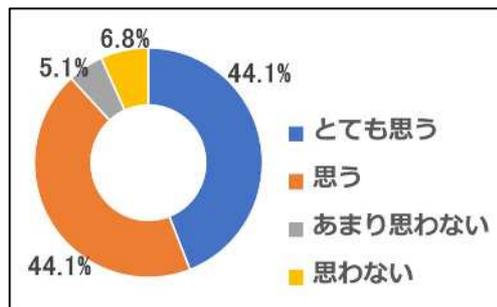
(エ) 課題に対して「なぜ」、「どうすればよいか」を考える場面がありましたか。

グラフ4



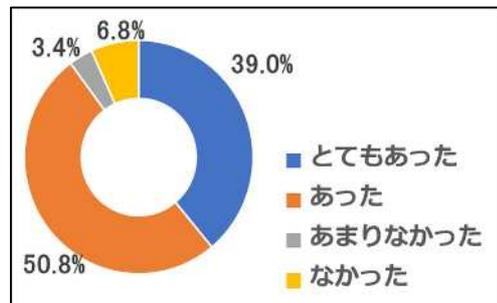
(オ) 今回の活動が地域に目を向けるきっかけになったと思いますか。

グラフ5



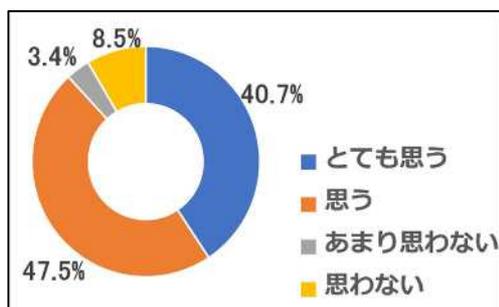
(カ) 活動前の自分と比べて、考え方や意識に変化はありましたか。

グラフ6



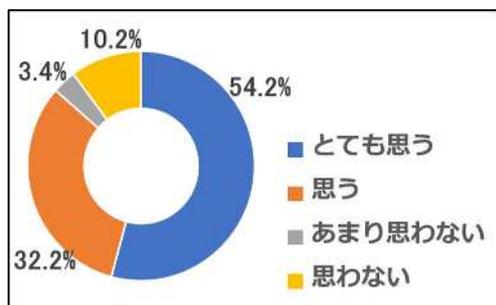
(キ) 今後も地域の活動に関わってみたいと思いますか。

グラフ7



(ク) 今回の経験は、自身の将来（進路・仕事・生活など）に役立つと思いますか。

グラフ8



生徒たちへのアンケートをとおして、この一年間で地域課題に対する関心（グラフ1）や地域への興味関心（グラフ2・5・7）が増したことは評価できる。諸活動の中では、丁寧な挨拶や積極的な声かけ、困っている人への手助けなど思いやりのある行動が見られ、印象的であった。また、「自分たちの活動で外国の方が喜んでくれて嬉しかった」「自分の知識を深めることができた」など生徒の感想が寄せられ、活動が生徒の意識にも良い影響を与えたことが分かった。今回の取組は、地域社会への理解を深めると同時に、生徒の協働性や責任感、主体性を育む貴重な機会となった。

6 今後の課題

地域には、観光の活性化や商店街の再生、環境保全など多様な地域課題が存在する。生徒たちが「自分たちの力が役に立つ」「やってみよう」と思える課題を選び、主体的に活動できるよう授業に取り入れてきた。しかし、3学年全体での活動であるため、横の連携は図れたが、学年間の縦の連携や次年度への継続までは繋げられていないと感じる。3学年が取り組みたい活動と1・2学年が取り組みたい活動が一致しない場合、持続可能な活動にならない。そのため、複数学年合同による活動も一部組み入れることで、1・2学年の意見も反映された取り組みになり、活動が継続していくと考える。

また、高校生ならではの発信力を生かし、活動内容をSNSや学校内で積極的に共有していくことも重要である。自分たちの活動の価値を広めることで、仲間が増え、地域の理解や協力も得やすくなる。高校生の視点や感性は地域にとって貴重であり、新しいアイデアの創出をもたらすものである。今後は、より一層「やらされている活動」から「自分たちで考え、地域をよりよくしていくための活動」へと、生徒たちの主体性を大切に活動にしていきたい。高校生が主体となって地域に関わることは、地域社会にとっても、高校生自身の成長にとっても大きな意味をもつと考える。

7 協働先一覧

No	協働先	所在地	主な内容
(1)	かごしま市商工会	鹿児島市	地域活性化活動支援
(2)	谷山ふるさと祭振興会	鹿児島市	地域活性化活動支援
(3)	社会福祉法人慶生会 La Plus	鹿児島市	地域活性化活動支援 商品共同開発
(4)	学校法人原田学園 鹿児島情報高等学校	鹿児島市	地域活性化活動協働
(5)	A コープ谷山店	鹿児島市	地域活性化活動支援
(6)	株式会社イケダパン	始良市	商品共同開発
(7)	株式会社ニシムタ	鹿児島市	商品共同開発
(8)	鹿児島製茶株式会社	鹿児島市	商品共同開発 企業研修・見学
(9)	ケーキハウス Sin	霧島市	商品共同開発
(10)	NPO 法人ゆめみなと鹿児島	鹿児島市	マリポートおもてなし活動支援
(11)	キューブ株式会社	東京都 千代田区	システム構築の指導 HP 作成の指導
(12)	公益社団法人鹿児島青年会議所	鹿児島市	アントレプレナーシップ教育
(13)	鹿児島市立清和小学校	鹿児島市	金融教育協働
(14)	株式会社 JA 物流かごしま	鹿児島市	企業研修・見学

8 その他（新聞記事等）

大波小波

鹿南高生、外国客を歓待

鹿児島南高校の生徒28人が、鹿児島市のマリポートかごしまに寄港したクルーズ船の乗客をもてなした。手製の英語の観光マップを配ったほか、日本文化を体験するワークショップも開催。外国人観光客に、鹿児島や日本の魅力をアピールした＝写真。



商業科の課題研究、普通科は総合的な学習の一環で、8日実施した。生徒たちは、英観光客船「ダイヤモンド・プリンセス」から市街地へ向かう外国人客に、仙巖園や天文館などの観光地を紹介。文化体験コーナーでは、剣道部員が打突を、茶道部員がお点前を指南した。

初めて抹茶を飲んだ米ニューヨーク在住のオーエン・ドゥアーさん(7)は「苦い味わいが新鮮だった」。2年の窪園結花さんは「英語で対話する貴重な機会になった」と笑顔だった。

南日本新聞（令和7年7月16日）

大波小波

鹿南高生が金融授業

近所の先輩が先生に！。鹿児島南高校生による出前授業「お金の教室」が、近くの清和小学校であった。商業、情報処理科の生徒が登壇し、小学6年生約130人にライフイベントの費用や年金制度について説明した＝写真。



鹿南高は、県金融広報委員会から教育研究校の委嘱を受けている。出前授業は16日、課題研究の一環として金融経済を学ぶ3年生11人が行った。結婚披露宴に約330万円、住宅購入に数千万円など、将来必要となるかもしれない出費を試算。年金は少子高齢化で、現役世代の負担が大きくなる可能性を指摘した。

清和小の田中篤人さんは「計画的な貯金、使い方が大事だと分かった」。鹿南高の平佐田理子さんは「金融リテラシーについて考えるきっかけになっていれば」と期待した。

南日本新聞（令和7年12月6日付）